

本を選ぶ

- 2030年に向けて学校図書館からSDGsを考える
- 『おい点P、動くんじゃねえ!』を生み出すまでの著者の思い
- 「もっと もっと かんがえた」先にあったもの
- DMかたろぐ

2026年(令和8年)4月10日

●発行/ライブラリー・アド・サービス
〒114-0002 東京都北区王子 4-23-4 TEL:03-6908-4643
<https://www.las2005.com>



2030年に向けて 学校図書館からSDGsを考える

朝日 仁美

SDGs…この略語を直訳すると「持続可能な開発目標」2015年に開催された国連サミットで加盟国の全会一致で採択されたものです。2030年までに達成すべき17の目標を定め、それに基づき私たちは「誰ひとり取り残さない世界」を目指している真っ最中なのです。採択当時は「エスディージーズ」と読むことすら知らなかった人も多くいましたが、今では小学校で学習する単語になりました。

採択から10年が経ち、学校図書館の資料にもSDGsに関連するものを買揃え、コーナー化するなどしてきたのではないのでしょうか？

私自身も学校司書として勤務する傍ら、絵本専門士として17のゴールと絵本を紐付け、生徒・児童の理解が深まるような取り組みを多数してきました。別置作りなどの参考になればと、全国に居る絵本専門士仲間の力を借りて、100冊以上の絵本を17のゴールに振り分けてリスト化した『[絵本で学ぶSDGs](#)』（別冊太陽 平凡社/2022）の出版もしました。

採択直後は「誰ひとり取り残さないために何をしたらよいのか？」を考えるために、まずSDGsを理解しなければと多種多様なイベントが行われ、新聞やテレビなどのあらゆる媒体でSDGs特集が発信されました。ゴールのアイコンに用いられた17

色で円を描くバッジなども販売され会社勤めをしている方などが着用し始めました。2030年までの15年をどのように進むか？みんなで考えていたこの時期は、今思えば未来への希望を持ったすごい熱量の時期だったかもしれません。

現在 皆さんとSDGsの関わりはいかがなものでしょうか？SDGsを話題にすることが少なくなっていますか？

この10年で世界は激変しました。大人だけでなく生徒たちも理解が進んだ2019年頃から、世界で新型コロナウイルス感染症が大流行し外出を自粛するというような誰も経験したことの無い事態が起きます。そしてその後もどんどん変化し続け、聞き馴染みのない単語も更に出てきています。例えば「カーボンニュートラル」「アニマルウェルフェア」そして「ウェルビーイング」などなど。人工知能の技術進化も忘れてはいけません。新しい言葉などに興味関心を持つことは必要だと思います。しかしこれらの単語はSDGsがあるからこそ着目され、話題になっているのではないかと思います。そこで今こそ、2030年まで5年を切ったこの時点でもう一度SDGsについて考えてみませんか？蔵書をフル活用して、学校図書館から発信してみてください。持続可能な社会への道のりは2030年以降も続く課題となるでしょう。世界の変化に瞬時に対応する学校図書館づくりを目指し運営していったほしいと願います。SDGsは一時のブームではないことを思い出し、最新の情報を得ることができる図書館を目指しましょう。(あさひ ひとみ: 絵本でSDGs推進協会/絵本専門士/糸魚川市学校司書)

『おい点P、動くんじゃねえ！』を生み出すまでの著者の思い

とけいまわり

▶悲しい科目 数学

皆様、こんばんわ。先ほど、数学の授業が終わったところです。今日も、授業中に机の周りを歩き、「分からないところはありませんか？」と声をかけて回りました。ほとんどの人が笑顔で「大丈夫です」と言いますが、授業後に声をかけると、「ついていけないで……」と悲しそうな顔になる人が出てきます。「私がわからないと言うと、授業を止めてしまいそうで……」

悲しい。なんて数学は悲しい科目なのでしょう。

これが日本史なら「廃藩置県と版籍奉還の違いがわからなくて……」と泣くでしょうか。「どうして地中海性気候は乾燥しているんですか……もう無理です……！」となるでしょうか。

体育は……

泣いてしまうかもしれません。跳び箱4段の前で「ガンバレ！ガンバレ！」と言われたあの日々がよみがえってきました。

……話を数学に戻しましょう。

なんて悲しい科目なのでしょう、数学。「解けない……」と泣く生徒さん。「私ダメなんです……」と落ち込む生徒さん。どうして数学はこんなにも悲しくなるのでしょうか。

本書は、そんな悲しみにサヨナラを告げたくて、ヤンキーのケンジと兄貴が数学に挑む物語になっております。

分数の割り算がわからないケンジ。「とにかくひっくり返してかけ算って覚えたらいい」を受け入れられないケンジ。理由がほしい。納得したい。ちゃんと理解したい。でも、授業はどんどん先に進んでしまう。次第に置いていかれたケンジ。

ケンジは知りたいのです。どうして分数の割り算はひっくり返すのか。「計算したら同じでしょ？」ではなく、分数で割るとは何をしているのか。

数学が苦手なケンジは、「そうかもしれねえけど、納得いかないっす！」と食い下がります。生徒の皆さんにも、ケンジのように遠慮なく突っ込んでほしいという思いで、ケンジと兄貴のキャラクターを書きました。

▶すべてを一度に理解しなくてもいい

引き算やかけ算から始まり、「かけ算とは？」「割り算とは？」に踏み込み、「マイナス×マイナスの意味」を経て、皆さんが散々ツッコンできた「なぜか池を逆周りに走る兄弟」も登場します。そしてケンジはサイン・コサインまでマスターして本書は終わります。

ケンジは、問題を解きながら、あちこちで間違えます。間違えもするし、結局理解できなかつたり、「なんか俺には難しいや！」と言ったりもします。

最後のページで、ケンジは「いやあ兄貴、今だから言うけど……俺、半分くらいは兄貴の言うこと、わかってなかったっすよ」とつぶやきます。

兄貴は「いや、それでいいんだ、ケンジ。半分わかって、半分わからない。それがちょうどいいんだ」と答えます。

これは私が生徒の皆さんにいつも伝えている言葉です。一度に理解できなくていい。

何か一つ、「わかった気がする」だけで十分です。問題を解いたり、生活の中で計算したりしているうちに、じわじわと分かっていく。

それが数学です。

本書でもケンジは、全部は理解できずに終わります。そう、一度にすべてを理解できなくてもいいんです。



晶文社
とけいまわり 著
A5判並製 276頁
定価：2,090円
978-4-7949-8029-8
発売日：2025年12月

▶算数や数学で納得のいないこと

本書を書ききっかけは、X（旧Twitter）での「算数や数学で納得のいないことはありませんか？」という投稿でした。

たくさんの質問をいただき、千本ノックのように回答していきました。

「なぜ池なのか！」「なぜ一緒に回らないのか！」「すれ違ったら一緒に帰ればいいのか！」「弟が動いたら兄も動く。こんなの解けるわけがない！」夢中で回答しました。

ツルカメ算は、ツルとカメの足の本数の差に注目して全体の差を捉えるシステムです。

商品Aとライバル社Bの値段の差だとしたら、いくらに設定すればいいかが見えてくる……

そんなことに繋がっていくのですよ、ツルとカメが。

動く点Pにもツッコミが殺到しました。

「動くな点P！」「抑え込め点P！」

「点Qもしれっと動くな！」

みんなの「点P止まれ圧」がすごい。

動くな点P……

「おい点P、動くんじゃねえ！」

そうだ、これをタイトルにしよう……！

そんなやり取りをまとめて、1冊の本を出版することになりました。

この本は、皆さんからいただいた質問でできています。本当にありがとうございました。

▶モデルになった生徒たち

私は、昔、ケンジや兄貴たちのような生徒たちを教えていた時期がありました。この本は、昔の教え子たちをイメージして書きました。

最初の授業で「Xとか何言ってんだよ、今数学だろ？英語やってんじゃねえ！」と言われたので、ケンジにも言ってもらいました。

そのケンジのモデルとなった生徒さんも、最後はサイン・コサインまで解けるようになったのです。

わかると嬉しくて、解けると知らせたくなる。

「自分で数学が解けた！」

という声をたくさん聞いてきました。

やはり、解けると楽しいのです。

数学は怖いけれど、楽しい。

積み上げ科目と言われる算数と数学。

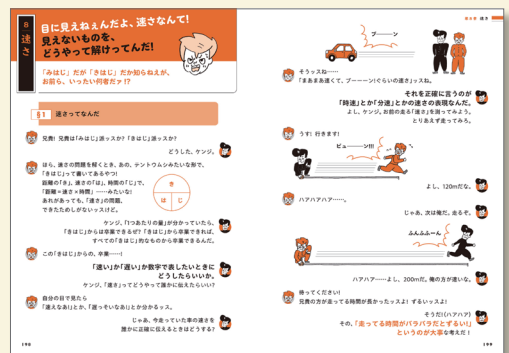
どこからわからなくなったのかも、自分が何をわかっていないのかもわからない。

わからないだらけの算数と数学。

でも、算数や数学はらせん階段のようにつながっています。わからない時は昔に戻っていいのです。

まさに「急がば下れ」。

あちこちがつながっているので、ある日突然、点と点がつながってパァァ！と理解が進む瞬間が来ます。



▶自分なりに手を動かすことの大切さ

本書の中で、ケンジは何度も解き方を間違えます。

この、「解き方を間違えながら正解までどり着く大切さ」も、本書で言いたかったことです。

間違っていたとしても、「自分で理解しようとした」姿勢が素晴らしく、この経験で手に入れた正解には大きな意味があります。

「先生が言うとおりに式を立てて、それを覚えて、答えを出す。先生が言っていないことはしちゃいけない」マインドは、一定の点数は出せるけれどどこかでつまづいてしまいます。

学生時代は上手くいっても、仕事でつまづく日が来ってしまうかもしれません。

自分で、トライ&エラーを繰り返しながら正解にたどり着く。算数や数学で一番身に着きたいのが、このトライ&エラーだと思います。

教える側が、子どもの試行錯誤を尊重し、見守る教育が広がればいいと思います。

一人でも多くの方に、「あ、数学って楽しいかも」と感じていただけますように。

(とけいまわり)

「もっと もっと かんがえた」先にあったもの

—特別支援学級からひろがる学校図書館—

吉川 薫

特別支援学級のある中学校も多く、特別支援学級の生徒の授業に入る学校司書も多いだろう。

小学校では、図書の授業があり読書や学習で利用されるので支援イメージも持ちやすいが、中学生に何をすればと悩むかもしれない。かなり亜流だがこんなこともできるのだと思ってもらえると嬉しい。

昨年度まで勤務していた中学校は、小学校と県立高校が隣接した緑多い地域にあり全校生徒約300名の学校だった。特別支援学級は毎年3学年10名ほど。特別支援学級の生徒は、人とかかわり方が難しかったりいつもと異なることが苦手だったりする。

最初にしたことは、生徒と仲良しになろうとした。特別支援学級の生徒は1時間目が始まるといつも畑に行く。そのタイミングを逃さずにみんなに「おはよう。どこに行くの」と声をかけまくった。

もちろん最初は誰も答えてくれない。でも少しずつ「おはよう」と言ってくれるようになっていった。

認識してもらったら次の段階だ。私は壁面飾り作りが苦手なので、特別支援学級の生徒に、学校図書館の廊下に壁面飾りを作ってほしいと手紙を書き生徒たちの前でそれを読みお願いをした。お願いするにあたって、学校図書館が生徒昇降口前にあり、全校生徒が目にする場所なので、特別支援学級の生徒の作品を知ってもらうには最善の場所だと担任の先生方に説明し、承諾を得てからのことなのは言うまでもない。毎月季節に合わせた壁面飾りが飾られるようになったら、今度は管理職に猛アピールだ。学校だよりに写真とコメントを定期的に載せてもらうことで、生徒たちのモチベーションも作品のクオリティーもどんどん上がっていった。

そんな折、新学期から特別支援学級の「図書の時間」が週1〜2時間、時間割に組み込まれたのだ。私は9名の生徒たちと一緒にやりたいことで頭の中がいっぱいになった。だがそれが実際にできるのかという不安もあった。

授業の相談に特別支援学級に足を運び、話を進める中で担任のある先生がこんなことをおっしゃった。

「特別支援学級の生徒たちにたくさんのことを

経験させたい」

この言葉が私の背中をドンと押した。

「よし、やろう」

図書館、特に中学校の図書館は堅苦しく静かに落ち着いて過ごす場所というイメージであるが、楽しい場所であると生徒たちに認識してもらおう。最初の授業は、中学校で数多く蔵書とするのは予算的に難しいので、絵本を100冊公共図書館から借りてきて机に並べた。自由に、静かにではなく楽しく本を手取る時間にしたのだ。

読むことが目的ではなく手に取り本に親しむことを目的にしたため、「これ知ってるよ」「小学校のときに読んだよ」との声とともに生徒たちの笑顔と弾んだ声のあふれる時間になった。生徒たちの笑顔あふれる学びの時間になるために何ができるか

「わたしは かんがえた。

もっと もっと かんがえた。」

1年間の授業を通して続けたことがひとつある。それは絵本の読み聞かせだ。四季折々の行事や生徒の興味関心に合わせ選書をしていた。秋口になったころ、体調不良で声が出なくなった日があった。「すみません。声が出ないので今日は読み聞かせはできません。」そんな私の言葉にひとりの担任の先生がひとつ提案してくださった。

「吉川先生の声が出ないならみんなで読み聞かせをしよう」

私はいつもと違う聞き手の席に座り、生徒たち全員で1冊の本を交代で読んでくれた。読み聞かせが生徒たちの日常になり、本を読んでもらう楽しさを得ていたこと、そして何よりも一生懸命に絵本を読んでいる生徒たちの姿がうれしくて泣かないようにするのに必死だった。

もちろん図書の貸出返却も毎回行っていた。図書館利用指導は、生徒たちがこの先公共図書館や進路先の図書館を自らの力で活用していくために必要不可欠であると考えていたからだ。

読書の楽しみ方も十人十色だ。特に特別支援学級では一人ひとりの特性に合った読書方法の提案

も必要だ。公益財団法人文字・活字文化推進機構から読書バリアフリー体験セットを借り、さわる点字付き絵本、LLブックなどを実際に体験してもらう機会を設けた。しかし、ひとつだけ私の配慮が足りなかったと痛感することがあった。紙の本だけでなく電子図書も活用しようと学校図書館で読み上げ機能を使った読書をしたとき、担任の先生のおっしゃった「音声の方が物語が入りやすい生徒もいるが、他の生徒の電子図書の音がとても気になり物語に集中できない生徒もいるのです」という言葉だ。誰かの学習の一助が誰かの学習の妨げとなっていることを身をもって学んだ瞬間だった。

ここにいるみんなが心地いい学びができる学校図書館とはどんなところなのか

「わたしは かんがえた。

もっと もっと かんがえた。」

中学生の生活の一部とも言えるゲーム、これを授業に取り入れられないかと考えた。国語の授業で百人一首を行うのを見て、ゲームと学校図書館の親和性は高いのではないかと思ったからだ。しかし大人にとってゲームは良いイメージばかりではない。さらに授業内でゲーム実施となるとハードルはもっと高くなる。担任の先生たちに納得してもらえぬ論拠としてゲーミフィケーションという言葉を用いた。ゲームの要素を活用して学習効果を高める手法のことだ。だが私の心配は杞憂に終わった。担任の先生方が一番求めていることは、生徒たちが楽しく学べることなのだとわかったからだ。もちろんここは学校なので、遊びで終わらせずに季節の行事が学べるかるた、スリーヒントクイズ、都道府県クイズ、国旗かるたなど学びにつながるゲームを取り入れた。一番生徒たちが好きだったのが「レシピ」というカードゲームだった。自分が引いたメニューカードに必要な「ぐざい」を集めるというものである。ゲームを授業に取り入れることで戦略を立てる思考力と状況を判断する問題解決力が身につくとわかり、そして、カードゲームがコミュニケーション能力を身につける方法として適しており、生きる力を養う手法として効果があることが実感できた。

生徒たちは、自分が勝つための戦略を考えるだけでなく、まわりの仲間たちへの配慮も忘れていなかった。かるたをしていたとき、なかなか取れない生徒

の前に取り札を集め、その場にいる全員が楽しく気持ちよく過ごせる心配りをしていたのだ。そこで生徒たちの生きる力を伸ばすためには何ができるか

「わたしは かんがえた。

もっと もっと かんがえた。」

明治大学の先生と学生さんたちの協力を得て学校図書館を博物館に見立てた授業を企画した。生徒たちが生まれたころ、15年ほど前に使われていた「むかし」のものを集めて実際にそれを触り、どうやって使うのかを考えてもらう授業だ。「むかし」のもの収集は教職員全員に声をかけた。学校図書館を博物館に見立て、明治大学の先生、学生さんたちと担任の先生方、生徒たちは、ひとつひとつ触りながら使用方法を考えた。ものの歴史や疑問点は図書で調べながら「むかし」の道具について解析していった。授業を支えてくれた明治大学の学生さんの中にこの中学校の卒業生がいた。彼が持参した「むかし」のものは、自身の中学生のときの部活ユニフォームだった。当時の学校の様子と今の学校の様子の話に花が咲き、先輩たちが培った伝統を在校生が繋いでいることを感じた一コマだった。

「特別支援学級の生徒たちにたくさんのことを経験させたい」その言葉に後押しされて、私もたくさんの経験と学びを紡いできた1年だった。授業を重ねるうちに生徒たちにとって学校図書館が居心地のいい楽しい場所であるという意識と読書に対する苦手意識を少しだけ薄らげることができたのではないかと感じている。

「図書の時間、楽しみ」

生徒からそんな言葉が聞かれた。その言葉は学校図書館に携わる人間にとって最大の誉め言葉であることは間違いがない。

「やりたいこと」と「できること」の間で悩んでいる学校司書も多いはずだ。根拠と熱意をもって対話し続ければ学校図書館が携われる「できること」は増えるはずだ。私たちもまだ知らない可能性が学校図書館という場所にはあるのだと思う。

だからこれからも何ができるのか

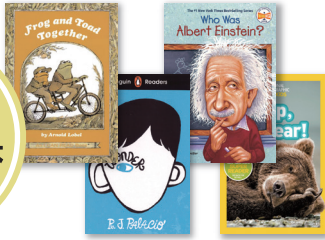
「わたしは かんがえる。もっと もっとかんがえる」

(よしかわ かおる：藤沢市教育関連図書館司書)

株式会社 三善

2026年度 英語名作ライブラリー

洋書絵本
セット紹介の
WEBサイトは
こちらから



eigo-meisaku.com

英語名作ライブラリー



〒167-0032 東京都杉並区天沼2-2-3

TEL : 03-3398-9163 FAX : 03-3398-9170

カラー挿絵たっぷりで **ワンワン** 読める

チュウチュウ 冒険団 シリーズ



- ① 冒険のはじまり
- ② ひみつの海チュウ宮殿
- ③ はかせのあぶないロケット
- ④ なぞのゆうわい船



ゆうかんなネズミたちの冒険を描いた、
英国で大人気の児童文学シリーズ

フィリップ・リーヴ作 サラ・マッキンティア絵 綿谷志穂訳
●各定価1760円(税込) © Sarah McIntyre

徳間書店 〒141-8202 東京都品川区上大崎3-1-1 目黒セントラルスクエア
TEL.049-293-5521 (受注センター) <https://www.tokuma.jp/kodomonohon/>

まどろっこしく、しぶとく、
しかし愉快地に。

中高生のための 人生論ノート



小川仁志著

*四六判美装カバー232頁 1760円

時代を超えて愛される、三木清
『人生論ノート』へのオマージュを
込め、自身の半生を振り返りつつ、
今一番伝えたいことを大いに語る。



ミネルヴァ書房 京都市山科区日ノ岡堤谷町 1
TEL075-581-0296 ※価格税込

広い世界の芸術にふれる全3冊!

美術にふれる絵本セット

ハリエット・ヴァン・レーク / ワウター・ヴァン・レーク 作
野坂悦子 / 訳 ●A4変 / 平均26頁 / 定価: 本体4,400円 + 税



モンドリアン / ヒルマ・アフ・クリント / エゴン・シーレ

朔北社 〒191-0041 東京都日野市南平 5-28-1-1F
TEL.042-506-5350 <http://www.sakuhokusha.co.jp>

人々 III 命とは何か

NHKスペシャル

私たちはなぜ「老い」や「死」を抱えるのか?

人気 TV シリーズ最終章、待望の書籍化!

下巻

【第1集】命のつながり細胞40億年の旅



上巻

【第2集】命の羅織内ワケランタ



定価:各3,300円(税込)

東京書籍

存在のすべてを

塩田武士の新たな代表作。



二児同時誘拐から始まる
物語は家族の愛と絆を描く。
親とは、子とは、現実には
血縁だけでは語れない!

著: 塩田武士

定価2,090円
(本体1,900円+税10%)

NDC913 / 四六判 / 472頁

ISBN 978-4-02-251932-0

本屋大賞
第3位

朝日新聞出版